



トヨタ・コンセプト

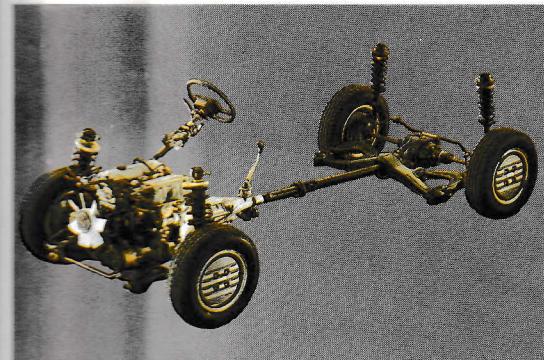
高度の操舵性と快適な乗り心地を実現した、新設計4輪独立懸架方式サスペンション。前輪にストラット、後輪にセミトレーリングを配したサスペンション・システム。熟成したメカニズムを、多くの配慮により、さらに完成度の高いものへと仕上げている。ジオメトリーを含め、チューニングをかさねた成果は、操舵性、乗り心地という、相い反する性能を見事に両立。その生き物のようにフットワークする華麗な走りは、まさに新設計の名に値するレベルに達している。

●前輪は軽量で、しかも剛性がきわめて高いストラット方式。コイルスプリング径を140mmへと大型化。スプリングのダンパー軸に対するオフセット角を8°に設定。また、ストラットのマウントバーを98mm径へと大型化。これらの配慮があいまって、乗り心地は大はばに向いている。また、5°05'、キャスター角を大きくとり、キングピンのオフセット量を5mmに設定するなど

のジオメトリーの工夫によって、直進安定性を高め、あわせて、保舵力や操舵能力を軽減することに成功している。

●後輪にロール剛性がきわめて高いセミトレーリング式独立懸架。バネ定数が柔らかいにもかかわらず、高いロール剛性が得られ、操舵性と乗り心地が両立できる。このメカニズムにトレッド変化の少ないサスペンション・ジオメトリーを設定。しかも走行性能をそこなうことなく乗り心地を向上させるコンプライアンス・チューニングを加え、走りを誇る欧洲車をしのぐ操舵性を実現している。

ラック&ピニオンと絶妙のマッチングをみせるスポーティなパワーステアリング。(XG-X-S) あくまでも優美に、しかもスポーティに走ることをテーマに新設計した、エンジン回転数感応式パワーステアリング。ダイレクトで、シャープなハンドリングが得られるラック&ピニオンとのコンビネーションにより、パワーステアリングとは思えないスポーティな走りも可能にしている。また、XG-S、XG-L、XGには、世界的にも数少ないパリアブルギアレシオのラック&ピニオン式ステアリングを採用。切りはじめには適度に重く、切り込むにしたがって軽くなるベストフィーリングを実現している。



## 車と人が、新しい言語をもつ。

コミュニケーション・レスポンスを追求し、コクピットをここまで進化させた。

必要データを瞬時に読みとることができる、グラフィカル表示のインストルメントパネル。左にグラフ型のスピードメーター、右に発光ダイオード使用のタコメーターを配した。これら2つのメーターは特に大型化。しかも、視認性にすぐれたエッジライティング方式透過照明を採用。パネルライトコントロールスイッチで照度調整も自由にできる。

2つのメーターの間にオドメーター、トリップカウンター。その下には水温計、油圧計、燃料計などの補助情報用のメーター類をコンパ

クトに、しかも見やすくレイアウト。合線の流れをつくりだす配慮を徹底。走行中に操作する可能性があるのは、すべてクラスターに集中レイアリングに向かって右側のクラスター・スピードコントロール(XG-X)、時計の操作スイッチ。左側のクラスター・ワイパー、ウォッシャー、空調ベゼルの操作スイッチを機能的にレイアライバーの視線と手の動きを最大限に考慮して配置。また、各スイッチの位置を最適化することで、操作性を向上させた。

## 空間のクオリティが、走りへと感性を昂める。

卓越した快適性は、この車の性能の一部として設計した。

気品さえ感じさせるカラーコーディネイト・インテリア。インテリアカラーは、ベージュとブルーの2種類を設定。どちらも、同色の濃淡による2トーンでまとめた、シックな仕上げ。高級サルーンに匹敵する、ゆとりの居住空間を実現。特に1382mmのショルダールームと905mmのヘッドクリアランスは、実質的なユーティリティを示す数値であり、注目に値するレベルに達している。パーソナルな走りはもちろん、5人が快適なスペシャルティカーの新しい居住空間の提案がここに存在する。

デュアルリクライニングなど8項目。シートは、フルアジャスタブル。後、上下にテリケートな調整ができる。好みのポジションが得られるスエードドライバーズ・シート。数々の新機構の採用により、大きな空調システム。プロアの風量アップなどの基本構造の改革はもちろん、ダクト、足もとルーバー、スイング(XG-X)などの新機構を開発。チーリング・システムへと進化させた。